



わかやま

No.87

和歌山県精神保健福祉センター 2021年5月

「和歌山県精神神経科診療所協会よりのご挨拶」

和歌山県精神神経科診療所協会会長
大家 尚文

県精神保健福祉センターはじめ、関係諸機関、関係諸団体の皆様、和歌山県精神神経科診療所協会（以下、「和精診」）の大家と申します。いつも皆様には大変お世話になっております。本日は、ご挨拶をさせて頂くとともに、和精診について簡単に紹介させていただきます。

精神科診療所の開設者や管理医師・勤務医師の全国組織として、公益社団法人日本精神神経科診療所協会（以下、「日精診」：本部は東京都渋谷区）があり、都道府県ごとに各支部があります。和精診もその支部のひとつであり、現在の会員は13名です。近年の会員数は微減傾向にあります。従前より和精診への加入は日精診会員であることが条件となっています。この条件は現在も踏襲されています。これは、和精診が法人化されていないことや事務の簡略化と関係がありそうですが、今となってはその経緯は不明です。和精診としては、私の知る限り、30年以上の歴史があります。日精診の活動はかなり活発で、会員への情報発信、学術的な全国大会開催、被災者支援のための会員派遣、新機軸的な医療や研究に対する会員への助成、厚労省等に対する要望の取りまとめ等を行っております。和精診の役割を考えると、日精診からの上記情報の伝達、関係諸機関からの要請の受皿的役割、会員間の連絡や親睦の要素が強いと思われれます。和精診独自の会合や研究会、講演会、相談業務等はこのコロナ禍により、残念ながら、休止状態が続いているのが現状です。コロナによる社会的混乱が一段落するまでは、個別事例はさておき、会全体の積極的な活動はなかなか困難であると考えています。



精神科診療所の立場で私たちは日常の診療を行っている訳ですが、一診療所のみで治療が完結することはあり得ず、他の社会資源に頼らざるを得ない状況が存在することは理解しています。従って、無理のない範囲で皆様に協力を要請することもございます。その際は宜しくお願い申し上げます。一方、個々の患者さんのみならず社会が精神科診療所に頼らざるを得ない状況も存在することも理解しています。また、狭義の精神疾患とは捉えられないものの精神医学的な支援や助言を必要とする人々は多数存在すると考えられます。このような社会的要請に対して和精診はオープンな立場です。自院の患者さんにものみ対応していれば事足りるとの立場ではなく、狭義の精神科医療を超え、社会的・公益的な役割についても可能な限り参画する所存です。個々の診療所にはそれぞれの理念があろうかと存じますが、会全体としては関係諸機関、関係諸団体との協力や協調も理念として掲げながら、日々の診療を続けたいと考えています。今後とも宜しくお願い申し上げます。

アドルフ・マイヤーを知っていますか？

アドルフというファーストネームで誰を思い浮かべますか？おそらく歴史上もっとも有名なアドルフは、あのナチスドイツの独裁者アドルフ・ヒトラーではないでしょうか。それに関連して、手塚治虫の『アドルフに告ぐ』を思い浮かべる人もいるかもしれません。いずれにしても、アドルフという名前には常にヒトラーのイメージが付きまといまいます。

一方、精神医学のアドルフといえば、アドルフ・マイヤー（1866-1950）がいますが、皆さんはご存じでしょうか？マイヤーはスイス生まれの精神科医で、アメリカに移民して1908年にジョンズホプキンス大学で全米初の精神科主任教授になり、アメリカ精神医学の始祖ともいえる重要人物です。今日の精神保健のさきがけとなった「精神衛生」という言葉を作ったのもマイヤーで、心の健康という概念を生み出した人でもあります。

日本の精神医学は、明治以来ドイツ精神医学を中心に発展してきたこともあり、もともとアメリカの精神医学の歴史には関心が低く、マイヤーを知らないのも無理はないかもしれませんが、驚くことに本家のアメリカの精神科医でもマイヤーを知らない人がほとんどです。それどころか、病名の診断を避け、ひとり一人の患者の生活史を詳しく調べて、生物-心理-社会的に理解する全人的アプローチは、何でもありの折衷主義と批判され、否定されてさえます。

私自身もそんな論調に便乗してマイヤーを批判的に見てきた一人でしたが、2014年に出版されたマイヤーの評伝を読んで、これまでのマイヤー批判には大きな誤解があり、それどころか診断ばかりが一人歩きする今日の精神科医療に対して重要な示唆があることがわかり、多くの人にマイヤーを知ってもらおうと、このたび翻訳出版しました。壁にぶつかったときは原点に立ち返って考えることも大切です。今日の精神医学・精神科医療にモヤモヤしたものを感じているとすれば、マイヤーの理念と実践は良い刺激になるかと思えます。ちょっと専門的な本ですが、ご興味があればご一読ください。



スーザン・D・ラム
小野善郎訳

心の病理学者 アドルフ・マイヤーと アメリカ精神医学の起源

Pathologist of the Mind
Adolf Meyer and the Origins
of American Psychiatry

明石書店

『心の病理学者 アドルフ・マイヤーとアメリカ精神医学の起源』スーザン・D・ラム著（小野善郎訳）明石書店、2021年

- もくじ P1 「和歌山県精神神経科診療所協会よりのご挨拶」
P2 シリーズセンター長だより④／もくじ
P3～6 令和3年度 県精神保健福祉センター相談案内／研修案内
P7 精神保健福祉協会ニュース
P8 はーとふるねっとわーく／編集後記

和歌山県精神保健福祉センター

〒640-8319 和歌山市手平二丁目1番2号 県民交流プラザ“和歌山ビッグ愛”2階

☎ (073) 435-5194 FAX (073) 435-5193



令和3年度 県精神保健福祉センター相談案内

思春期相談

学校に行かない

最近様子が
おかしい

やる気が
起きない

ずっと
イライラする

専門の医師による思春期の相談窓口を設置しています。
思春期・青年期に特有の悩みや精神疾患、不登校やひきこもり等の相談に応じます。

対象 思春期・青年期の問題を抱えるご本人やご家族

場所 県精神保健福祉センター 相談室

申込み 事前に予約が必要です。

相談料 無料

お申込み・お問い合わせ
和歌山県精神保健福祉センター
平日9:00～17:45
☎(073)-435-5194

ひきこもり家族のつどい

“ひきこもり”等が長く続くと、本人だけでなく家族も不安を募らせたり、息づまりを感じる場合があります。ご家族同士が同じ悩みや体験談など、分かち合いや交流を図ることで、気持ちや和らいだりエネルギーを回復させることに繋がります。

対象 “ひきこもり”や人間関係が“孤立”状態にある家族を持つ方

日時 毎月第3水曜日 13:30～15:30

場所 県精神保健福祉センター プレイルーム

参加費 無料

予約 不要

令和3年	4月21日	5月19日	6月16日
	7月21日	8月18日	9月15日
	10月20日	11月17日	12月15日
令和4年	1月19日	2月16日	3月16日

※令和3年4月・5月は中止。今後も新型コロナウイルス感染拡大防止のため、やむを得ず中止となる場合がありますので、詳しくはセンターまでお問い合わせください。

薬物問題(乱用・依存)相談

薬物の乱用や依存の問題が生じると、本人や家族・周囲の人はその問題を自分たちだけで何とか解決しようとかえて問題が長期化し、深刻になるという悪循環が起こりがちです。センターでは、違法薬物、危険ドラッグ、処方薬、市販薬などの乱用や依存問題に関する相談を行っています。

場 所 県精神保健福祉センター
相談料 無料



来所相談(要予約)

予約受付時間 平日 9:00~17:45

☎ (073) 435-5194 (予約専用)

電話相談

受付時間 平日 9:30~12:00
13:00~16:00

☎ (073) 435-5192 (相談専用)

さらに専門的なご相談をご希望の場合は、以下のプログラムを継続的に受けていただくことも可能です。

本人

SMARPP(スマープ)などの認知行動療法の手法を用いた心理教育プログラムを実施しています。プログラムでは、薬物問題について振り返り、コントロールする方法を考えます。

家族・知人

CRAFT(クラフト)などの認知行動療法の手法を用いた心理教育プログラムを実施しています。

ギャンブル問題相談

ギャンブルにのめりこみすぎると、仕事や家事を怠ったり、借金をするなど、社会生活に支障をきたすようになります。また、本人だけではなく、家族も、借金の肩代わりをするなど問題に巻き込まれます。センターでは、ギャンブル問題に関する相談を行っています。ひとりで悩まず、家族で抱え込まず、ぜひご相談ください。

場 所 県精神保健福祉センター
相談料 無料



来所相談(要予約)

予約受付時間 平日 9:00~17:45

☎ (073) 435-5194 (予約専用)

電話相談

受付時間 平日 9:30~12:00
13:00~16:00

☎ (073) 435-5192 (相談専用)

さらに専門的なご相談をご希望の場合は、以下のプログラムを継続的に受けていただくことも可能です。

本人

SAT-G(サットジー)という認知行動療法の手法を用いた心理教育プログラムを実施しています。プログラムでは、自身のギャンブル問題について振り返ったり、ギャンブルをやめる工夫やギャンブルをしたくなったときの対処方法などについて考えていきます。

家族・知人

CRAFT(クラフト)などの認知行動療法の手法を用いた心理教育プログラムを実施しています。

♥ わかちあいの会和歌山 うめの花

対 象 大切な人を自死で亡くされた方
(家族・友人など)

場 所 県精神保健福祉センター
プレイルーム

参加費 200円(お菓子・お茶代として)

※1歳～小学2年生までのお子さんの一時保育を希望の場合は、1週間前までにご相談ください。(小学3年生以上の場合もご相談可)

★★【田辺会場交流会】開催★★

令和3年7月3日(土)

13:30～15:30

西牟婁振興局 4階 大会議室

(田辺市朝日ヶ丘23-1)

開催日時・内容

令和3年 4月17日(土) 13:30～15:30 交流会	令和3年 6月19日(土) 13:30～15:30 交流会
令和3年 8月21日(土) 13:30～15:30 交流会	令和3年10月16日(土) 13:30～15:30 交流会
令和3年12月11日(土) 12:30～16:00 講演会・音楽会・交流会開催	令和4年 2月19日(土) 13:30～15:30 交流会

♥ 自死遺族相談

対 象 大切な人を自死で亡くされた方
(家族・友人など)

場 所 県精神保健福祉センター

日 時 概ね第4月曜日 13:00～17:00

相談料 無料(要予約)

※秘密は厳守されます



令和3年	4月26日	5月24日
	6月28日	7月26日
	9月27日	10月25日
	11月22日	

令和4年 1月24日 3月14日

(令和3年8月・12月、令和4年2月の開催はありません)

※上記各種相談や集いについては、新型コロナウイルスの流行状況により中止となる場合があります。開催の有無については、県精神保健福祉センター(073-435-5194)までお問い合わせください。

お知らせ

和歌山県精神保健福祉センターだより「わかやま」への掲載記事募集！！

日頃より、精神保健福祉の推進にご協力いただいている施設・団体の皆さまの活動紹介やPRなど、当センターだよりに掲載させていただき記事を募集いたします。

イベントや新しい取り組み等、広く周知させていただきます。

*センターだより発行時期：年4回(5月・8月・11月・2月それぞれの下旬)

*募集期間：随時(連絡先：和歌山県精神保健福祉センター)

*掲載時期や掲載枠については限りがありますので、まずはご相談ください。

ごあんない

令和3年度 県精神保健福祉関連新任者研修



日時 令和3年6月23日(水) 10:00~16:00
令和3年6月24日(木) 10:00~16:30
※2日間通しての受講プログラムです

場所 県民交流プラザ和歌山ビッグ愛12階会議室
(和歌山市手平二丁目1番2号)

対象 保健所、市町村、精神科医療機関、相談支援
機関、障害福祉サービス事業所等において、
精神保健福祉業務の従事経験が3年未満職員

定員 30名(※先着順・初回申込みの方優先)

申込先 郵送又はFAXで県精神保健福祉センターまで
TEL:(073)435-5194 FAX:(073)435-5193
申込み締め切り 令和3年6月11日(金)

《内容》

6月23日(水)
6月24日(木)
※2日間通して
のプログラム

- ・上野 和久氏(高野山大学教授)
- ・原見 美帆氏
(ミナモトヘルピーングパートナーズ 理事長)
- ・岩橋 千紗子氏(相談支援員)
- ・堀本 久美子氏(ピアサポーター)
(地域活動支援センター櫻)
- ・小野 善郎
(県精神保健福祉センター 所長)
- ・県精神保健福祉センター職員

依存症関連

令和3年度 ギャンブル依存症者支援従事者研修

ギャンブル等依存症の基礎知識とSAT-Gライトを用いた支援

講師 佐藤 寛志 氏
(島根県立心と体の相談センター企画員)

開催日 令和3年9月30日(木)
13:30~16:30

方法 オンライン開催(Microsoft Teams を使用)

対象 保健福祉、医療、行政等の援助職従事者

定員 60名・無料(申込先着順)

申込み 令和3年9月9日(木)までに
FAX、メールでお申し込みください。

FAX 073-435-5193

メール e0503011@pref.wakayama.lg.jp



■プログラム

13:35~15:25 講義

- ① ギャンブル等依存症の基礎知識
- ② SAT-Gライトの使い方

15:35~16:20 講義

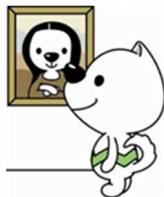
SAT-Gライトの実際

- ① オリエンテーション
- ② SAT-Gライトデモ動画の視聴
- ③ SAT-Gライトの事例紹介

16:20~16:30 質疑応答

精神保健福祉協会ニュース

「ほっとする笑顔つながる
こころの絵」大募集！！



和歌山県精神保健福祉協会は、人がほっとしたり、
笑顔になるような絵を大募集します。

1 募集内容

- (1) **対象者** 和歌山県内に在住、または通勤・通学している方であれば誰でも応募できます。
- (2) **規格** ①見る人の心をあたためる絵であれば内容は自由②応募は自作で未発表の作品お一人一点まで③応募作品サイズは(最小)はがき大～(最大)画用紙四つ切り大
- (3) **応募期間** 令和3年9月10日(金)まで
- (4) **応募のしかた** 作品の裏に、氏名(ふりがな)、年齢(学年)、住所、学校名(勤務先)、電話番号を明記した用紙を貼った上、下記の和歌山県精神保健福祉協会「ほっとする笑顔つながるこころの絵」あてご応募ください。



2 入賞者

最優秀賞1名 優秀賞2名 入選若干名
※入賞された方には、賞状および副賞(図書カード)を贈呈。また、入賞された方には、10月下旬頃に文書にて連絡します。

3 表彰式

令和3年11月20日(土)に和歌山ビッグホエールで開催する「こころのフェスタ2021※」において表彰式及び入賞作品の展示をします。

4 その他

作品の著作権は主催者に帰属し、応募者の承諾を得ずに啓発用教材に使用することがあります。ご応募頂いた作品は、令和4年1月4日以降に和歌山県精神保健福祉センターまで取りに来ていただければ返却いたします(要連絡)。また、入賞された方の氏名及び市町村名(在学中の方は学校名・学年)を発表します。予めご了承ください。個人情報については適正に取り扱い、本来の目的以外には使用しません。

※こころのフェスタ2021は、ふれあい人権フェスタ2021・りいぶるフェスタ2021と共同開催致します。

参加費無料

令和3年度 こころの集い (和歌山県精神保健福祉協会講演会)



未来につながる ジャイアントパンダの子育て

講師:株式会社アワーズ(アドベンチャーワールド)

熊川 智子先生



日時 令和3年6月21日(月) 14:00 ~ 15:30

場所 県民交流プラザ和歌山ビッグ愛1階大ホール(和歌山市手平2丁目1-2)

定員 100名

申込締切 令和3年6月15日(火)

※新型コロナウイルス蔓延状況によっては開催を中止させていただく場合があるため、電話またはFAXにて必ず事前申し込みをお願いします。

※当日はマスク着用、手指消毒、検温及び体調チェック等感染予防対策にご協力ください。

【講師略歴】1972年東京都生まれ。飼育員を目指して都内の専門学校に進学後、1993年株式会社アワーズに入社。2003年に3年間パンダ担当を経て、一度現場を離れ、2012年より再びパンダを担当し、チームリーダーとしてパンダの繁殖に取り組む。2020年11月に赤ちゃん誕生の際も、24時間体制の中チームで親子を見守り、ケアにあたる。

お申込み・お問い合わせ先 和歌山県精神保健福祉協会

〒640-8319 和歌山市手平2-1-2 県民交流プラザ”和歌山ビッグ愛”2階
精神保健福祉センター内 電話073-435-5194 FAX073-435-5193

精神保健福祉の第一線で働く関係スタッフの紹介コーナーです。

今回は、日本赤十字社和歌山医療センター医療社会事業課/患者総合支援センターソーシャルワーカーの戸石 輝さんです。

はーとふるネットワーク



ーソーシャルワーカーになられたきっかけを教えてください

高校生の頃に医学や心理学に興味を持ち、その中でソーシャルワーカー（社会福祉士・精神保健福祉士：以下、同様）という職種を知りました。大学は福祉系学部に進学し、医療機関での実習で指導をしていただいたソーシャルワーカーに憧れ、日本赤十字社和歌山医療センターに就職しました。今年度で入職 12 年目になります。

ー日本赤十字社和歌山医療センター医療社会事業課はどんな機関ですか？

日本赤十字社和歌山医療センターは、和歌山市にある高度急性期、急性期の医療機関です。2019 年度の実績では、年間 21,000 人以上の方が入院し、年間 7,480 件の救急車を受け入れています。疾病や障がいを抱える中で、家族関係や経済面、学校、仕事のことなど、様々な不安や課題に直面する方もいます。医療社会事業課には、社会福祉士、精神保健福祉士、事務職員が在籍し、患者さんやそのご家族が抱える不安や課題などに対する支援を行っています。また、医療社会事業課の職員は、患者総合支援センターという部署と兼任をしています。患者総合支援センターには、看護師もおり、多職種で患者さんやそのご家族に関わっています。

ー具体的にどのような支援をされていますか？

支援の内容としては、自宅や施設などへの退院や他の医療機関への転院を支援する退院支援、通院をされている方の生活に関する支援、生活費や医療費に関する相談、疾病や障がいを抱えての就職や復職に関する支援など、様々です。これらの支援は、ソーシャルワーカーのみで行うことはなく、医師、看護師、助産師、公認心理師、リハビリテーションのセラピスト、事務職員などの多職種で協働しています。

ー支援に際して苦労されることはありますか？

編集後記

先日、『東大生が選んだこれは勉強になるアニメ・漫画ベスト20』という番組を見ました。アニメ部門で鬼滅の刃に始まり、進撃の巨人、呪術廻戦…コロナ禍でホームステイとなり、amazon プライムビデオに熱中する子供達のお陰で20個中半分以上の作品を見てる！知ってる！という結果に。エンタメとして楽しみつつ、実用書で勉強するよりも頭にスッと入りやすいらしいです。これからはほどほどにアニメや漫画を容認しつつ、一緒に楽しもうと思った機会でした。(か)

「人」に対する支援には、ただ 1 つの正解というものはないと思います。自らの実践を振り返った時に、「これでよかったのか」と悩むことがよくあります。また、相談内容によっては、ソーシャルワーカーだけでは対応できないこともあります。

悩んだ時やソーシャルワーカーだけで対応できない場合には、院内外の多職種の方と協働しています。

ー支援をする際、一番大切にしていることはどのようなことですか？

相談に来られた方の生活のイメージを共有できるように心がけています。私が相談に来られた方にお会いをする場所のほとんどが当センターです。お話を伺う中で、その方がどのような生活をしてきたのか、どのような生活をしたいのかということをお聞きして、イメージを共有するようにしています。その上で、病気や障がいの状況などを踏まえて、将来を見通し、必要に応じて生活イメージを変更・共有をしながら、支援を行っています。

ー今後の抱負について教えてください

新型コロナウイルスの影響により、直接、お会いをして話をすることが制限されるようになりました。しかし、このような状況であるからこそその生活上の悩みや課題を抱える人が多くいらっしゃると思います。新型コロナウイルスを含め、様々な環境や状況の変化に対して、柔軟に対応できる体制を構築したいと考えています。

ー次の方のご紹介とその方へのメッセージをお願いします

国保野上厚生総合病院の田中 博也さんをご紹介します。

総合病院の中で精神科を中心に活躍されている精神保健福祉士の方です。実践を行う中で連携する他、職能団体の活動でもいろいろと教えていただき、お世話になっています。

それでは田中さん、よろしくお願ひします。